

たきかわCS通信

滝川教育委員会 教育部 教育総務課 令和3年 1月8日発行 第 23 号



～学校支援地域本部事業紹介～

【実践例紹介】

江部乙小学校 5年生 総合的な学習の時間

農業や化学肥料を極力抑えた農法での米作りです。



講師 とんぼの会 会長 平澤 一彦 さん



水生生物を育む誇らしい田んぼ



江部乙町の安心安全な最高に美味しいお米

2021年が始まりました。今年こそ、新型コロナウイルス感染症が収束し、色々な行事が再開され活気に満ちた日々が送れますよう心から願っております。

本年も『滝川市のコミュニティ・スクール』へのご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、今回も「コミュニティ・スクール」の実践例をご紹介します。

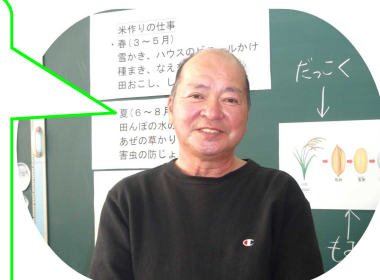
12月22日(火)に、江部乙小学校の5年生は、小松有樹子栄養教諭による総合的な学習の時間に、とんぼの会の会長であり、江部乙中学校区学校運営協議会の会長でもあります平澤一彦さんから『稲』について色々なことを教えていただきました。



小松有樹子栄養教諭

米ができる過程、流れ等がわかるというなあと思う、この授業を設定しました。また、地産地消ということも含め、平澤会長には、授業ビデオや写真撮影、水生生物の観察体験等色々なことにもご協力いただきました。特に今日の授業では、稲の観察や米の種類などたくさん質問にも答えていただき、大変感謝しております。ありがとうございました。

皆さんが住んでいる江部乙町は、北海道の中でも優秀な米どころです。誇らしい気持ちを持ち、豊かな自然と素晴らしい景色を大切にしたいと思っています。こうしてみなさんとお話できる貴重な時間をつくっていただき、ありがとうございました。



平澤一彦さん

平澤さんは、米作りの仕事について、写真や図を使いながらわかりやすく丁寧に説明してくださいました。

また、子どもたちはたくさん質問をしたり、大切なことをしっかりとメモに取ったりと、平澤さんのお話に耳を傾け、真剣に学ぶ姿がとても印象的でした。

今年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために体験学習などがなかなかできませんでしたが、しかし、このような状況の中で平澤会長にお越しいただき、子どもたちに貴重なお話や観察体験等を実施していただきました。子どもたちは、米作りを身近なこととして感じることができ、大変よかったと思います。今後も、地域に対する愛着や誇りをさらに育んでいきたいような活動をたくさん実施して参りたいと思います。平澤会長、コロナ禍の中、本当にありがとうございました。



高橋一徳教頭・中島 淳校長



江部乙小学校



稲の花について説明

これは、稲の花です。白く見えるのは雄花で、ここにある糸のようなものが雌花なんです。

授業の様子



《一年間の米作りの仕事》

米作りの仕事

- ・春(3～5月)
雪かき、ハウスのビニールかけ
種まき、なえをそだてる
田おこし、しろかき、田植え
- ・夏(6～8月)
田んぼの水の管理
あぜの草かり
害虫の防じょ
- ・秋(9～10月)
いねかり、だっくかんそう、もみすり
袋づめ、出荷



観察用の米を配布

稲と粳と玄米と白米の違いを観察しましょう。



授業全体の様子



米の観察



ポットで育てた稲で説明

稲の根もとに粳がついています。外して粳の中を観察してみてください。稲の中は空になります。



稲の観察



感想とお礼の言葉

こちらの心がほっこりする平澤会長の笑顔にドッキリしました。 お米たちも幸せ一杯に育ちますね！

0

《子どもたちの質問》 ～ 抜粋 ～

- ・肥料の量 → 10アールで60kg位を田おこしの時に水にまく。
- ・除草剤 → 1年に1回くらい。人によって変わる。稲の生育にじやまにならないようにする。
- ・稲の花 → 7月20日～8月10日前後に1日に1時間位咲く。受粉が終わると閉じる。
- ・出荷量 → 昔は60kgで出荷。現在は、30kg単位。1トンの袋で出荷するところもある。
- ・収穫量 → 1トンで米になるのは600kg位。
- ・出荷場所 → 農協(ホクレン)と全国へ(道内7割、全国3割)。1996年に結成された生活クラブ米の生産者グループ「とんぼの会」の米共同購入も行っている。
- ・米の種類 → きたくりん、ななつぼし、ゆめぴりか
- ・新米・古米のちがい → 米は生きているので、常に呼吸し劣化していく。冷蔵庫にいとると3年間は同じ味で食べられる。
- ・稲穂が出る時期 → 葉が10枚出ると稲穂がでる。
- ・分けつ → 茎が根の近くから枝分かれすること。大体3本の稲を植えると24本になる。

子どもたちは、「初めて水生生物を観察してワクワクし、虫が好きになりました。」「田んぼを歩く体験は楽しかった。」「粳から玄米、白米になってびっくりしました。これからもおいしくお米を食べていきます。」「今年はコロナ禍で体験活動があまりできなくて残念でしたが、平澤さんのお陰で色々体験させていただきありがとうございました。」等、感謝の言葉がたくさんあり、楽しかった活動であったことが伝わってきました。

また、平澤会長の「田んぼは生き物を育む貴重な条件をつくっているところです。」「米は自然の恵みを最大限に取り入れたとても生産能力の高い作物です。それを日本人が主食として選び取り入れたのは素晴らしいことです。」という言葉がとても印象的でした。

平澤会長は、生き物たちの大切なすみかとしても田んぼを大切にされ、そして、お米に対する尊敬の念と米作りに対する誇りをもって日々努力されていることに大変感動致しました。このコロナ禍の中、平澤会長、江部乙小学校の小松先生をはじめ諸先生方、実り多き授業を本当にありがとうございました。米作りの奥の深さをさらに感じました。